

令和4年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会
会議録要旨

【日時】 令和4年10月17日（月） 14:00～16:00

【開催場所】 富士見市教育委員会 会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	森田
○	○	×	○	○

【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
(1) 令和4年度 第1回生徒指導に関する調査結果について
- 5 議 題
(1) いじめのない学校づくり子ども会議について
(子ども会議実施後の取組に向けても含む)
(2) 「いじめの重大事態」への対処について
- 6 事務連絡
 - ・ 令和4年度いじめのない学校づくり子ども会議の日程について
 - ・ 第3回いじめのない学校づくり委員会の日程について
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) いじめのない学校づくり子ども会議について

(いじめのない学校づくり子ども会議実施後の取組に向けても含む)

- 【事務局】 本年度のいじめのない学校づくり子ども会議では昨年度から引き続き、「ネットによるいじめ」をテーマに話し合いを行う。昨年度の会議での話し合いを通して、各校ではネット使用に関わるルールを決めるなど、ネットによるいじめをなくす活動に取り組んでいるが、SNSやネットゲームによるトラブルが多く報告されるため、具体的な取組を考えていく必要がある。そこで、本年度の会議では、どのような視点をもって話し合うとよいか、委員の皆様にご意見を伺いたい。
- 【委員】 ネットによるいじめは、学校で使用している一人一台端末よりも、児童生徒が家庭で使用しているスマートフォンで起きるのではないか。具体的にどんなことがいじめにつながるのか話し合って確認することが大切。
- 【委員】 「ネットを用いたときに、友達とのトラブルは何がきっかけとなり起こるのか」と問いかけて、話し合いを行うとよいのではないか。
- 【委員】 自分自身が体験したトラブルを具体的に挙げて、なぜそういうことが起きるのか考えることよい。
- 【事務局】 具体的には、どんなことがネットに関わるトラブルにつながるのか、事例の確認や整理が必要と考えている。
- 【委員】 メール等の文章では、誤読による誤解からトラブルになることも考えられる。
- 【委員】 主語が抜けるだけで受け止め方が変わってしまう。ネットゲーム等で使われる独特な用語（ネットスラング）も理解が難しい。メール等のやりとりで、言われて嫌だったことや言葉を子ども会議で話し合ってみるのはどうか。
- 【委員】 ネットでのメールのやりとりは、知り合いだけで行っているとは限らない。
- 【委員】 実際に使われているネットスラングは一見すると悪口で使われているかどうか分からない。大人が調べてみて初めて誹謗中傷だと分かる場合もある。

【委員】 ネットスラングを使ってメール等でやりとりをしていると、相手が不快に感じていたとしても、罪悪感がない場合があるのではないか。

【委員】 相手が見えないので、その時の感情で言葉を打ってしまい、結果として自分だけが退出させられることもある。

【委員】 子供の LINE や SNS のやり取りでは、自分が打ったメールを送信後に取り消す場合が多いようだ。

【委員】 児童生徒のネットに関わる状況やトラブルを掴み、それに対応した取組を行っていくとよい。

(2) 「いじめの重大事態」への対処について

【事務局】 今後、本市においても重大事態にかかわる案件が発生することも考えられる。いじめの重大事態が起きた際の対応の流れ、またいじめの重大事態を調査する際の留意点について、ご意見を伺いたい。

【委員】 いじめの重大事態への対処をする際には、被害児童生徒だけでなく、加害児童生徒への適切な対応も必要となってくる。

【委員】 いじめの重大事態では、調査を開始するきっかけは何か。

【委員】 保護者からの依頼がきっかけとなるのではないか。

【委員】 いじめの加害者が、自分のしたことを振り返ったり、今後どうしたらよいかを考えたりすることができるような調査になるとよい。

【事務局】 まずは、一つ一つの出来事を具体的に聞き取り、事実関係の整理を行い、明確にすることが大切だと考えている。

【委員】 いじめの重大事態が発生した際どんな対応したらよいのか、またいじめの重大事態が起こらないようにするにはどんなことが必要か、整理していく必要がある。

【委員】 いじめの重大事態が発生した場合、学校で聞き取りを行うだけでなく、第三者委員会（本委員会）を設けて、調査をすることが必要である。